

伊那拠点のピアニスト 平沢真希さん(53)

自然と調和 新たな音楽

ポーランドの名ピアニストに才能を見いだされ、留学先の同国に十六年間居住、世界各地で演奏してきたピアニスト平沢真希さん(53)。帰国後は国内での公演に力を入れ、自作曲アルバムを発表するなど活動の幅を広げる。二〇一八年に故郷の伊那市に拠点を移し、「ネイチャーピアノ」と名付けた自然とのコラボレーションで、音楽家としての新たな道を切り開こうとしている。

(中沢絵之)



①ネイチャーピアノの活動に意欲を見せる平沢さん ②自作曲「祈り」の絵本。最終ページに伴って演奏が続き、QRコードを読み込むと平沢さんの演奏を聴くことができる。いずれも伊那市で

「県の「頑張るアーティスト応援事業」に採択された自身の企画「森のピアノ(ネイチャーピアノ)」と収録したいですね。企画にはどんな思いが。

伊那市と富士見町境にある入笠山の標高千八百メートルの中に、アップライトピアノを持ち込んで奏でる試み。鳥のさえずりや川のせせらぎ、木の葉のざわめきだとか、そういう自然の音が完璧に調和されている中でピアノの音色を響かせ、自然と人のつながりを共感してもらいたいと考えています。動画を公開することになります。プロモーションビデオみたいなもの

「長年ポーランドを拠点に演奏活動をした。留学先のシヨパン音楽院(現シヨパン音楽大)を卒業後、世界各地でバイオリンやチェロの著名な演奏家たちと一緒に弾かせていただいた。音楽に対する向き合い方など、そこから学んだことはとても多い。居住地のワルシャワでは、闘病中の子どもたちを元気づける団体の活動に参加しました。鍵盤ハーモニカを持ってホスピタルクラウンと一緒に病室を回り、演奏を始めた。

「魂のピアニスト」とも評される。子どもの頃から「平沢節」とからかわれました。名曲を作曲者の意図に沿って弾こうとしています。弾けば弾くほど違った解釈も生まれてくるし、独特の節回しがあるようです。でもそれが個性だと思う。一つの音の集中力がものすごく高いとも言われます。だからそう呼ばれるのかも思いませんね。

ひらさわ・まき 伊那市出身、伊那北高卒。東京音楽大在学中に、ポーランドを代表する作曲家カロル・シマノフスキの音楽に強い影響を受ける。1993年の霧島国際音楽祭でグランプリを受賞。審査委員を務めた同国の名ピアニスト、レギナ・スメンジャンカさんに認められ、シヨパン音楽院に奨学金特待生として留学、最優秀首席卒業。同国内をはじめ、フランスやオランダ、クウェート、フィリピンなどで演奏活動を行う。帰国後は全国各地でコンサートを開き、山梨県北杜市のオルゴール博物館「ホール・オブ・ホールズ」では2012年から通算1400回以上公演をこなした。これまでにアルバム6枚をリリース。14年の「オマーシュ・ア・シヨパン」は、月刊誌「レコード芸術」で特選盤に選定された。

「今後の抱負は。日本に帰ってきて、あらためてふるさとの良さを知りました。一六年にリリースした自作曲アルバム「水の記憶」の収録曲の多くは、伊那谷の自然からインスピレーションを得ました。例えば「天への帰帰」は天竜川、「聖なる樹の声」は駒ヶ根市の光前寺にある杉の大木。これからも曲作りを続け、「ネイチャーピアノ」と結び付けた活動を展開していきたいと思っています。